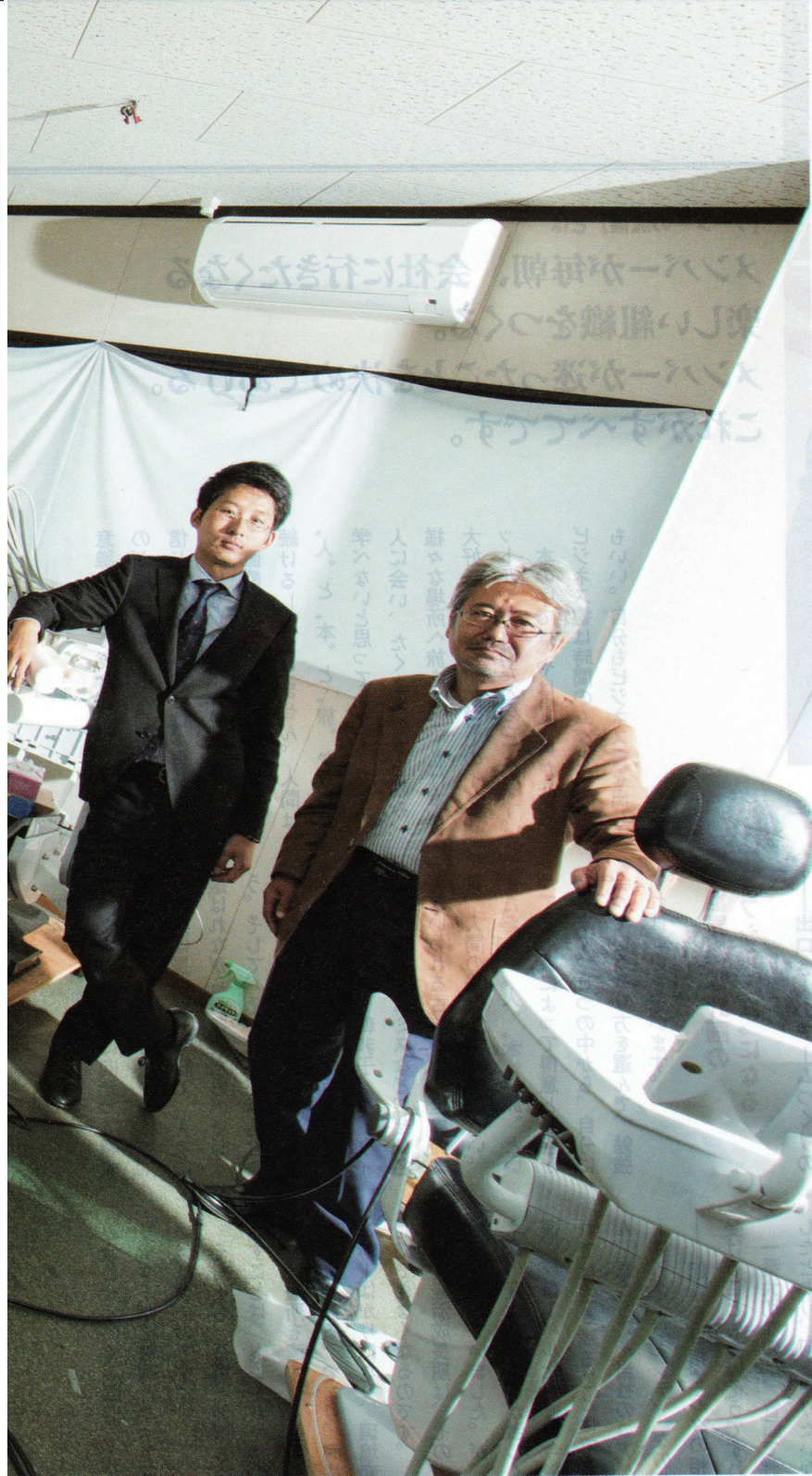


脱サラ組の社長が語る

# 独立で知った「1円の価値」

脱サラ前後で大変化するものに「お金観」がある。経営者は何のために、誰のために稼ぎ、どう使うのか。そして、それは会社員時代とどう変わったのか。ある人は「自分のために稼ぐ」から「他人のため稼ぐ」に。ある人は数百億円を売る仕事から数百円を売る仕事に変わった。彼らの目に映る「お金」の世界を眺めてみよう。

構成文／東 雄介 撮影／刑部友康、阪巻正志、宮田昌彦、日高康智



ビジネスは1人でするな！  
華僑に学んだお金のオキテ

格安のオリジナルブランド。  
歯科用医療機器の製造販売

**大城 太**さん(36歳)  
(株)前仲原(めーなかばる)物産/  
奈良県大淀町

外資系保険会社、歯科用医療機器メーカーを経て、大物華僑に弟子入り。華僑流の成功術を授かり、独立。初年度から年商1億を稼いだ。関連会社(株)エスディーメディカル会長。著書に「一生お金に困らない『華僑』の思考法則」(日本実業出版社)がある。

**Q** お金を失う不安、感じないですか？

**A** 人のお金ならともかく自分のお金がなくなる分には何も怖くない。なくなったらまた稼げばいい。それができる事業プランがあるから起業してるんです。お金がなくなったらどうしようなんてスベ根性ですよ。



ンツに乗りたかったんです。それも2000万円超のタイプで、サラリーマンじゃ一生かけても無理なヤツ。だから社長になるんだと。

ただ、いきなりは難しそうでした。なんで、医療機器メーカーを退職してから起業するまでの間、華僑に弟子入りしたんです。なぜ華僑か？ 僕はこう見えて、ものすごい弱い。オバケが怖くて小学4年まで家のトイレに一人で行けなかつたぐらいです。その点、中国の人は強い。映画に出てくる中国マフィアが大柄な欧米人をやっつけるのを見た。しかも金儲けがうまいときている。これや！と。

師匠の考え方は普通の日本人と何もかも違いました。「3000年あればダイ君だって10億円は作れる。だつたら今、スピードを上げればいいだけ」ですからね。

お金の考え方でいったら、華僑はまず自分のお金を使いませぬ。儲かるビジネスプランさえあればお金を出してくれる人は必ず現れる。この会社だとビジネスプランを考えるのは僕。実行するのはまた別。つまり考える人、実行する人、お金を出す人の3つの役割があるということ。これを分担すれば手持ちがゼロでもあり得ないスピードで成長できるんです。だから華僑は「絶対に一人でビジネスをするな」とも言うんですよ。

彼らがお金を出すのは仲間のため。そのお金は仲間を成長させ、いざ自分に返ってくると思えるからです。何かおごる時も、お金は自分の財布から相手の財布に移動するだけと考えて、おごる回数を競い合う。一方で自分のためのお金は絞ります。僕なんて飲み物にお金使うのが嫌で、水道水をペットボトルに入れて持ち歩いているぐらい。

そうやって節約したお金は仲間還元するか事業の成長のために使う。ペンはもう手に入れました。これから僕らが目指すのは、歯科医療機器市場のアジアンナンバーワン。アジアの龍、「亜龍」になるのが夢です。